

【活動の主題】 体カアップで元気いっぱい！野洲っ子の体づくり推進活動

【学校名】 野洲市立野洲小学校

1 本校の概要

本校は、野洲市の中心地にあり、近くに駅や市役所、病院、大型商業施設がある。全校児童数 655 人、29 学級である。そのうち、9 学級 66 名が特別支援学級在籍児童数である。通常級にも特別な支援を要する児童は多い。

立地条件から児童数に対して運動場は狭い。安全上、体育科授業、休み時間において使用割当を必ず守らないといけない。

本校は、令和 10 年度に近畿小学校体育研究大会において授業提供校である。したがって、次年度から体育科を窓口とした授業づくりを研究していく。

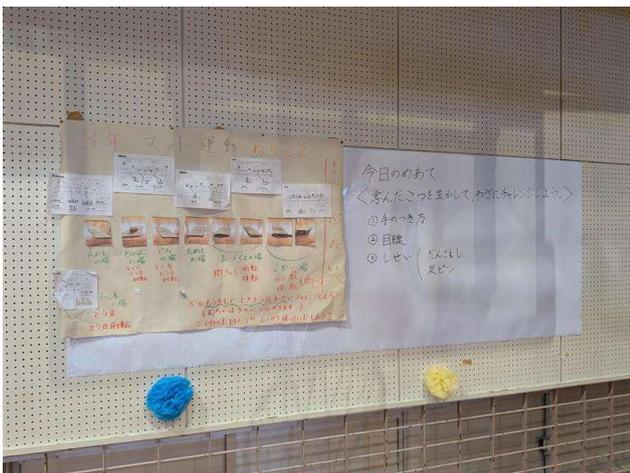
2 取り組んだ内容

(1) 2年生「跳び箱遊び」

器具を使った運動遊びの学習では、跳び箱遊びに取り組んだ。動物歩きから、跳び箱に飛び乗る時に、「どのように手をつくのか」「どこに手をつくのか」を考えさせる学習や、またぎのった跳び箱を手で押して進み、着地までこだわる学習などに取り組んだ。実際の中で子どもたちに「手の付き方」「つく場所」を行わせた後に、購入させていただいたホワイトボードにまとめた。

マット運動や球技においても、学習のめあてや授業の流れ、活動のポイントを提示したり、子どもたちの発言の記入し学習活動をまとめたりすることに使用した。移動式のホワイトボードをわざわざ準備する手間が省けると、壁に設置されているので場所をとらないことも購入してよかった点である。

【ホワイトボード】



3 活動の成果

ボールかごは劣化が激しく、タイヤが動かなかった。新しいカゴを購入させていただき、道具の出し入れが格段にやすくなった。低学年の児童が狭い体育倉庫に入り、けがをせずに準備片付けができるように教師が見守っていたが、タイヤが動き、外に出せたので、広い体育館のフロアにカゴを移動させることができ、安全面が改善された。

ホワイトボードは、子どもたちへの視覚支援に有効だった。特別な支援を要する児童が多い本校にとって大変価値のあるものである。技のポイントをおさらいしたり、動きの図を張って子どもたちと共有したりするなど、教室と同じような支援ができた。

今後も、児童の安全面を考え、ボールかごをフロアに出して使用していきたい。ホワイトボードは、特別支援の観点からも、全教職員が視覚支援を行えるように、周知していきたい。



【ボールかご】